



JFS-C 規格取得は 社員教育の絶好のチャンス



JFS-C 規格適合証明取得 株式会社播磨園製茶様（緑茶の生産、製造、加工、卸）

京都府綴喜郡宇治田原町に本社を構える株式会社播磨園製茶様は、自社農園での有機農法にこだわった茶葉や抹茶などを製造販売しておられます。宇治田原は、昔からお茶の名産地として知られています。会社のルーツは1858（安政5）年に遡り、150年以上の歴史がある老舗です。しかし、老舗という地位に安住するのではなく、他の農園に先駆けて有機農法を取り入れるなど、先進的な取り組みをしてこられました。日本だけではなく、海外のオーガニック認証も早い時期に取得しており、京都府有機農業アドバイザーとしても登録されています。有機農法にこだわった茶葉や抹茶を日本全国の小売店に卸すだけではなく、オンラインショップで直接消費者にも届けています。有機農法だけではなく、食品安全に関する取り組みも積極的に進められており、2020年にはJFS-B規格を取得し、2024年2月には、新設された本社工場においてJFS-C規格にステップアップしました。今回は、播磨幸博代表に、JFS-C規格を取得した目的や今後のビジョンについてお話をうかがってきました。

—JFS-C 規格を取得された目的をお聞かせください。

播磨代表（以下播磨）：当社は以前から茶葉や抹茶を海外に輸出していました。主な輸出先はアメリカと欧州です。日本は少子化が進んでいますし、日常的にお茶を飲む習慣のない人も増えています。国内に留まっていたら、事業が先細りになってしまうという危機感があったからです。幸いなことに当社のお茶は海外のお客様にも好評で、今後さらに輸出に注力していこうと考えていました。しかし、その時すでに取得していたJFS-B規格では、より多くの茶葉や抹茶を輸出するのに不安がありました。JFS-B規格は国際的な認証（適合証明）ではありませんから、海外に輸出するためには監査を受ける必要があったのです。JFS-C規格を取得すれば、監査を受けずに輸出することが可能になる場合が多いという点が非常に魅力的でした。輸出に注力するというのは当社にとってマストな選択でしたし、認証（適合証明）が原因で輸出が滞るような事態は避けたいですね。会社の将来のために、国際的な認証であるJFS-C規格の取得を決意しました。

—JFS-C 規格を取得するにあたって、設備投資などはされましたか。

播磨：思い切って工場を新しく建設し、そこに旧工場の機能の大部分を移転させました。もちろん、新設された工場は、JFS-C規格を取得するために必要な設備をしっかりと備えています。規格の取得と工場の新設を別々に行うのではなく、同時に進めてしまった方が、はるかに効率的だと思いますよ。

代表取締役
播磨幸博氏





—JFS-B 規格と JFS-C 規格のどちらも取得されたわけですが、実際に 2 つの規格の内容をご覧になられてどう感じられましたか。

播磨：やはり、日本で作られた規格なので分かりやすいですね。2020 年に JFS-B 規格を取得したきっかけは、当社が所属している京都府茶協同組合が主催した講習会だったのですが、非常に分かりやすい規格だという点に魅力を感じました。たしかにガイドラインも分かりやすく、非常に使い勝手も良かったですね。JFS-C 規格については、JFS-B 規格よりも要求事項は多いですが、以前に JFS-B 規格を取得した時の経験も蓄積しているので、特に難しいとは感じませんでした。最初から JFS-C 規格に挑戦するのではなく、まずは JFS-B 規格を取得してからチャレンジすれば、決して取得のハードルは高くないのではないのでしょうか。

—JFS-C 規格の取得に対する取引先の反応はいかがでしたか。

播磨：取引先も大いに歓迎してくれましたね。信頼に値する第三者機関が当社の食品安全を保証してくれているのですから、これほど心強いものはありません。認証があるので、取引先からのチェックもある程度緩和されます。取引先としても、チェックの手間が少なくなる

というのは歓迎すべきことでしょう。どのような会社も、手間がかかる取引はしたくないものです。これからは、JFS 規格のような認証（適合証明）を取得している会社が取引の相手として歓迎されるようになるのではないのでしょうか。

—JFS-C 規格を導入することに対する社員の方の反応はいかがでしたか。

播磨：既存の工場で JFS-C 規格を取得したのではなく、認証を取得するために工場を新しく建設したという背景もあり、作業内容やマニュアルが大きく変わりました。設備が変われば、やることも大きく変わってきます。真面目な社員ばかりなので特に反発などはありませんでしたが、全社員が慣れるまでには時間がかかりましたね。最近ではみんな新しい工場にも慣れてきて、JFS 規格の意義やメリットもしっかりと浸透してきたように感じます。いくら現場の社員のレベルが高くても、多少の戸惑いは生じてしまうものです。なにかしらの認証（適合証明）を取得するときは、そのことを念頭に置いておいた方が良いでしょう。

—JFS 規格に期待していることをお聞かせください。

播磨：実際に取得してみて、本当に便利な認証（適合証明）だなと感じているのですが、同業他社で取得したところが少ないのが残念ですね。他の認証（適合証明）はあるけれど JFS 規格は取っていないという製茶メーカーが多いですね。まだ知名度が低いのではないのでしょうか。もっと積極的にプロモーションをすれば、取得する企業は増えると考えています。より多くの方に JFS 規格が認知されるようになることを願っています。

—JFS 規格を取得しようと検討している企業にメッセージをお願いします。

播磨：顧客に選んでいただくためにも、JFS 規格のような信頼性の高い認証（適合証明）を取得することが必要不可欠な時代になっていると感じます。やはり、第三者機関が食品安全を担保してくれるというのは、大きな安心材料になります。ただ単に「当社は食品安全を厳しくやっています」と言っても、なかなか信用してもらえません。また、JFS 規格を取得するための取り組みを進める中で、社員のレベルも必然的に上がっていくのではないのでしょうか。食品安全について勉強する必要がありますから、社員教育の絶好のチャンスだと考えています。JFS 規格のような信頼性の高い認証（適合証明）を取得することを通じて、会社全体のレベルが底上げされるのではないのでしょうか。ぜひ取得を前向きに検討していただきたいですね。

— 本日はありがとうございました。



Company Profile

社名 株式会社播磨園製茶
代表 播磨 幸博
住所 本社工場
〒610-0211
京都府綴喜郡宇治田原町奥山田政所 20 - 1
創業 明治 34 年
URL <https://www.harimaen.co.jp/>